地域おこし協力隊
活動レポート

協力隊が行く！

今月の担当は
中﨑隊員です！

協力隊の中﨑です。椿が綺麗に咲き始め、気付けばもう２月。協力隊の卒業まであと約２カ月になりました。あっという間の３年。だんだんと「枕崎市民」になってきたことを実感します。

ものづくりの楽しさ

ハーブ栽培において冬は農閑期。とはいえ、春先に咲き誇る力モミール、ローズマリーなどの種を植え、株分けをする作業があります。夏はほぼハーブを中心に栽培していますが、この時期はお野菜もチャレンジしています。２回目のチャレンジのにんにく、タマネギ、そら豆、ひよこ豆…。皆さんが上手に育てているタマネギは前回は失敗し、今回は今のところ生き残っていますが、ちゃんとしたタマネギができるかはまだ分かりません。畑をしていると、いろいろな方々が興味を持ってくださいます。状況を見てアドバイスも頂けます。皆さんに見守られてるな～と感じています。

私はものづくりの現場が好きなので、今回協力隊の活動で農作業をしたことは、とても感慨深いものがありました。学生の頃、写真を撮影して現像しプリントまでする過程が好きでした。作物を栽培することは、その過程とよく似ていて、写真も思い通り撮影したつもりであっても、いざ現像してプリントしたものを見ると「おや?」というのもあるし、逆に思ってもないような良い写真になったりします。作物も教えていただいたとおり、栽培しても上手くいかなかったり、思っていたよりも発芽率がよく大量に生産できたり。写真も薬液、温度、露光、プリント紙で色々と変わります。作物も日の当たり方、土の状態、気温、時期などで生育に変化が出ます。こんなところが大変でもありますが、自分の性格に合っているのかな、と思っているところです。

農業と○○

「半農半X」という言葉をご存じでしょうか?「半農半X」という言葉は、塩見直紀氏が提唱した概念です。塩見氏は著書『半農半Xという生き方』の中で、「(半農半Xとは)小さな農業で食べる分だけの食を得て、ほんとうに必要なものだけを満たす小さな暮らしをし、好きなこと、やりたいことをして積極的に社会とかかわっていくこと」と説明されています。

私の人生は折り返し地点まで来ています。農業に関しての経験は圧倒的に少ないです。畑作業を通じての経験値が重要だと思っています。今現在、栽培、加工、販売までを目標としています。農業だけでも大変!と思うところもありますが、私が栽培しているハーブは農薬を使用しません。畑仕事は他の作物よりも圧倒的に少ないです。その分加工等の時間に費やせます。新しいことに挑戦するのは大変です。しかしながら、未知の世界を味わえたり、知識を広げられるのは楽しいです。ここ枕崎で起業し、楽しく暮らせたらと思っています。

市長コラム vol. 34

津波

こんにちは、前田祝成です。

今月のコラムでは、先日のトンガ沖海底火山の大規模噴火による津波注意報について書きます。

1月16日午前4時7分、枕崎市に津波注意報が発表されました。前日の午後1時頃(日本時間)に南太平洋のトンガ沖で発生した海底火山の大規模噴火の影響による津波発生の恐れがあるということで出された注意報でした。地震による津波ではなく、海底火山の噴火の空振によるものとされる今回の津波への影響を気象庁も測りかねる予測の難しい津波注意報に、本市の対応も難しいものがありました。

本市では、午前1時頃から気象台からの情報提供により、総務課危機管理対策係の職員が庁内に待機をしておりましたが、注意報が発表された約20分後の4時30分には「災害警戒本部」を立ち上げました。まず、3年前に協定を結んでいた久木田病院と小原病院の2カ所を初めて一時避難施設として開設しました。両施設に私が直接、電話を入れて開設のお願いをしましたが、対応していただいた2医療施設の職員のお二人は早朝にも関わらず、快くご対応いただきました。心から感謝いたします。また、一時避難施設には若手職員2人が詰めてくれました。2人とも消防団に所属する職員で、心強く感じることでした。さらに、第一避難所に指定している市民会館と妙見センターを避難所として開設しました。そして、午前4時30分頃から7時頃までの間、4回の防災行政無線による注意喚起と避難所開設について放送しました。午前1時52分に60㎝の津波(潮位変化)が確認され、幸いにして被害は確認されませんでしたが、新聞報道にもあったように、枕崎漁港沖で実習船での停泊実習中だった鹿児島水産高校の生徒と教諭が一時避難施設に避難(その後、市民会館に移動)するなど避難所開設が奏功したものと考えます。

ここ数年、想定を超える自然災害が各地で発生しています。これからも、最悪の事態を想定した防災対策に取り組んでいくことを再認識させられた今回の津波でした。

枕崎（まくさき）×人（ひと）×仕事（しごと）　No.23

楠　拓郎（たくろう）さん　(29)

菊農家 / 大塚中町

「枕崎 × 人 × 仕事」では、枕崎にあるさまざまな仕事と、その仕事に携わる人を紹介します。
今月は、若手菊農家の方を取材しました。

南九州最大の菊の産地、枕崎市。年間2600万本以上の菊が枕崎から出荷され、本市基幹産業の一つとなっています。今回は、本市で一番若い菊農家の楠拓郎さんを取材しました。

枕崎出身の楠さんは、立神小・中学校、枕崎高校を卒業後、菊農家を営んでいる親からの勧めもあり、鹿児島農業大学へ進学しました。大学では土づくりや生産技術のノウハウなど農業の基本的なことを2年間学び、卒業後は研修も兼ねて宮崎県の宮崎中央花き市場で2年間働きました。朝早い時は午前2時半頃から出勤することもあったそうですが、品質の良い花きに触れられたことや同僚の人たちとの人付き合いなど、学ぶことが多くあり、その当時は楽しくて仕方がなかったと振り返ります。

その後、枕崎に戻って来てから菊農家として働きはじめ、今年で7年目を迎えました。

現在の仕事内容は、菊の植え付けや農薬の散布、花の収穫作業、出荷作業、ハウスの管理など。植え付けから出荷までは約4カ月かかるため、その作業を年3回繰り返します。楠さんが生産する主な品種は、白大輪と黄大輪という品種で、年間100万本以上も出荷しています。

「自分の理想に近い良いものができた時の達成感、ものが高く売れた時の喜びがこの仕事にはある」と話す楠さんですが、若い頃は農業に抵抗があったそうです。しかし、大学で農業について学び、実際にやってみてその面白さを知ります。「良いものを作れば高く売れる。自分のやり方次第では、可能性が無限にある仕事」と菊農家の魅力を話します。

プライベートでは、菊農家の方や友達とゴルフに行くことが楽しみだという楠さん。「後継者不足で跡継ぎがいない農家もあるので、将来的には規模を拡大して、より高みを目指していきたい。父を超える経営者になれれば」と、これからの目標を話しました。

スポーツ・文化イベント情報

南溟館
開　9:00 ～ 17:00
※入館は16:30まで
休　毎週月曜日
※月曜日が祝祭日の場合は翌日
問　スポーツ・文化振興課
TEL72-9998

インスタグラム展

南薩地域の「南薩の人・食・景色・暮らし」をテーマに、約13万人のフォロワーを持つカイセイさん、ほか9名のインスタグラマーが撮影した写真と動画が楽しめる展覧会です。また、地域おこし協力隊の方々が枕崎の地で見て感じたことを収めた写真を展示します。

- **会期**　2月5日(土)～27日(日)※月曜休館
- **会場**　南溟館（第1展示場・第2展示場・市民ギャラリー）
- **時間**　午前9時～午後4時30分
- **観覧料**　無料

「南薩とりっぷインスタグラムフォトコンテスト」作品展示

南薩の新たな魅力を再発見することを目的として、南薩で撮影された「南薩の人・食・景色・暮らし」に関する写真をインスタグラム上で応募いただいた写真の中から、約50点展示します。

第3回枕崎国際芸術賞展 今秋開催！

詳しくはこちらから→

＜審査員＞（敬称略）
- 絹谷幸二
  (画家・日本芸術院会員・東京藝術大学名誉教授)
- 保科豊巳
  (画家・東京藝術大学名誉教授)
- 河口洋一郎
  (アーティスト・東京大学名誉教授)
- 上原利丸
  (染色アーティスト・東京藝術大学美術学部教授)